

## ☆優勝者コメント

Team 男山 石川 幸一さん

昨年からはまった新しいアドベンチャーレース『エクストリームシリーズ』。夏のレースは参加できなかったが、周りの評判も良かったので冬のシリーズ（全3戦）に出してみました。

・レースの内容一口で言うと雪中でのオリエンテーリング。良くある、決まったコースをスノーシュー履いてできるだけ速く走って来る・・・というようなレースとは違い、雪中がゆえに、夏とはちょっと違う感じのする地図読みと、雪中だからこそ選べるルートの選択。また、レース中に盛り込まれてるチームチャレンジのゲームも、遊び心があって、無駄にムキになれてよかったです。さらに、道具がスノーシュー（和カンジキもいた）、山スキー、クロカンスキーなど、自分の好きな道具で、それにあったルートを選択していけるのも自由度があって面白いです。レースエリアによっては、道具次第で多少の有利不利はあるかもしれませんが、毎回、今回は何の道具でいこうか・・・とか考えるのも1つの楽しさだと思います。結局我々は全部スノーシューで参加しましたが。

### ・参加スタンス

今回は、ライバルチームの出現により、我々はレース思考（本気モード）での参戦を余儀なくされましたが、そんなに目を三角にしてがんばらずとも、雪の中を、あっちじゃないか・・・、こっちから行った方がいいんじゃないか・・・、この急斜面一気に駆け下って（そして転がって）みようか・・・なんて相談しながらハイキングモードで参加するのも、また面白いと思います。アスリートが、がんばるモードで参加しても、一般人がハイキングモードで参加しても充分楽しめるイベントでした。アットホームな感じもよかったので、来年は口コミだけでも今年よりは集まるんじゃないかと思っています。来年も楽しみにしています。

## ☆参加者コメント

コモ・ウン・ガト 勝間田 恵美さん

「アドベンチャーレースに出してみない？」アドベンチャーレース、って、あの泥だらけになって山の中を走るやつでしょ？私って、一応都会育ちだし、大学文系だったし、そういうのはちょっとなあ。「いやいや、冬のレースだから、泥だらけにはならないよ。それに、自転車とか、特別な道具はいらさないの。スノーシューを貸してくれるからさ。そういえば、学生の時、スキーやってたじゃん？」

・・・なんかよくわからないけど、じゃあ一回だけ・・・。

朝9時半、スタート。いきなり「クイズに正解するまでスタートできない」と言われ、オツムのちょっと弱い私は四苦八苦。「まずはアタマのアドベンチャーというわけか。」雪山を歩く、ということで、寒さ対策万全、吹雪でも雪崩でも負けないぞ・・・ところが来たのは汗、汗、汗。相手は体力も知力もある男友達、「次のチェックポイントはどこにあるか」なんて地図を読む能力も余裕もない私は、ひたすら根性で彼について行く。考えているのは、ただ「脂肪が燃えているはず・・・」とその瞬間、突如開けた視界の先には、さっきまでいたゲレンデや村が小さく見える。反対側には連なる山々の雪景色。普通のスキーやハイキングと違い、いわば「道なき道」を進む。その先には、そこを歩いた人にしか見られない景色。上りがあれば、下りがある。スキー？そり？そんなものは要らない。「オシリ」がある。この年になって、オシリで斜面を滑り降りるなんて、「ハズカシイ・・・」これ、一般社会向けの私の顔。本当は「楽しい」オトナの遊び。途中のチェックポイントでは「チームチャレンジ」なるゲームで、童心に返



る。っていうか、これがホント私かも。2時間半後、無事ゴール！！「次の大会も出ない？」

「う〜ん、出ちゃおうかな？」

レースそのものだけでなく、大会をサポートしているその町や村の人達が、気さくに話し掛けてくれる。かくして、3大会全てに参加してしまいました。

復活・なんくるないさー 芝田 登紀子さん

冬のエクストリームの魅力1、本気で頑張る人もいれば、私のように珈琲もって散歩気分で参加するのもあり、で、いろんな楽しみ方ができる。レース初めてって言って参加していた人が毎回参加して、回を重ねるごとにはまって行ったりしてるのもなんだか楽しい♪2、自己紹介とかあったりして、アットホーム。ゴールのたびに地元の方が作ってくださる汁物とそこでの会話がうれしい♪3、どこも秘湯つつうのも良い。行くのは不便ですが（笑）、この機会がなければ行くことがない（！）であろう秘湯や山にいける。どこもとても良いところで別の季節にも行きたい、と思う。レースと別途あるポイントラリーで参加モチベーションが高まる！最後の3回目は、冬のレースならではの「尻すべり」で山を下れて最高でした！